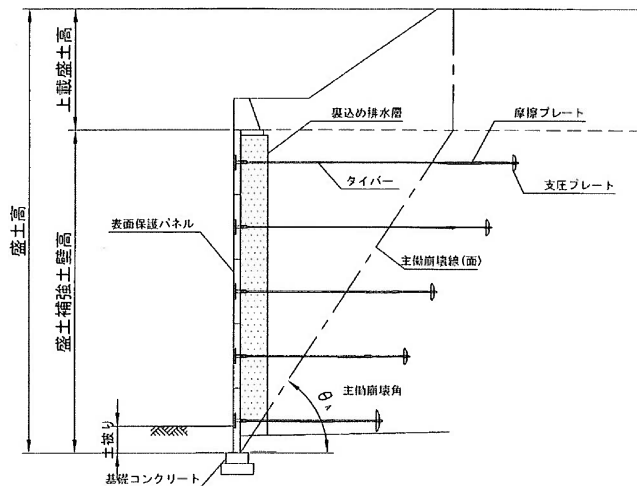


技術概要書（様式）

※別紙2

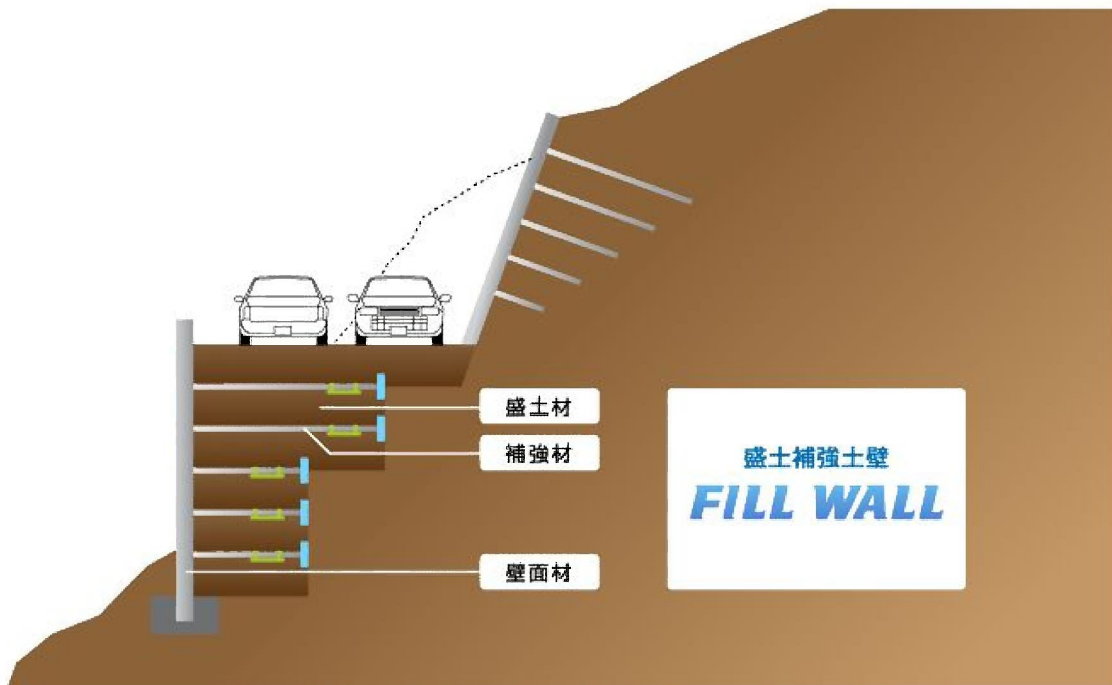
技術分類	安全 防災 環境 コスト ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）											
技術名称	ふ い る う お ー る こ う ぼ う F I L L W A L L 工法	担当部署	矢作建設工業(株)九州支店									
NETIS登録番号	CB-090021-V	担当者	真行寺 康明									
社名等	F I L L W A L L 工法協会	電話番号	092-752-9501									
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>・盛土補強土壁は、盛土材の中に各種補強材を敷設し、土と補強材との相互作用によって盛土全体の安定や強度を高める土構造物である。これらの盛土補強土壁工法は、耐震性、経済性、景観、施工性あるいは地盤の変形に対する追随性などの面で優れた特性を有し、適切な設計、施工により十分な信頼性が得られている。 FILL WALL(フィルウォール:以下省略)工法は、このような優れた特性を有する盛土補強土壁工法の経済性、施工性のさらなる向上を目指して開発された新しい盛土補強土壁工法である。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>・盛土補強土壁の技術である。従来の盛土補強土壁工法では支圧抵抗または摩擦抵抗のいずれか一方の効果により安定を保っているが、本工法では支圧抵抗と摩擦抵抗の効果により安定を確保している。盛土全面に設置した剛性の高い鉄筋コンクリート製の表面保護パネルと盛土内に設置した補強板(支圧プレートと摩擦プレート)を剛性の高いタイバーで緊結し、パネルと補強板に挟まれた盛土材料の拘束効果によって安定を保つ構造となっている。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>・本技術により、補強土壁のコスト縮減や工程短縮が可能となる。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>①適用可能な範囲</p> <p>・適用勾配は垂直勾配のみ、適用高さは盛土高さが20m程度まで(盛土高さとは盛土補強土壁の壁高と上載盛土高を合わせたもの。右図参照)</p> <p>5. 活用実績</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">国の機関</td> <td style="width: 15%;">9 件</td> <td style="width: 15%;">(九州 0件、九州以外 9件)</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>9 件</td> <td>(九州 0件、九州以外 9件)</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>2 件</td> <td>(九州 0件、九州以外 2件)</td> </tr> </table>			国の機関	9 件	(九州 0件、九州以外 9件)	自治体	9 件	(九州 0件、九州以外 9件)	民間	2 件	(九州 0件、九州以外 2件)
国の機関	9 件	(九州 0件、九州以外 9件)										
自治体	9 件	(九州 0件、九州以外 9件)										
民間	2 件	(九州 0件、九州以外 2件)										



6. 写真・図・表

盛土補強土壁工法とは？

壁面材と補強材及び盛土材からなる土留め構造物です。



表面保護パネル
鉄筋コンクリート製

コネクター

▲裏側から見た様子

タイバー
ネジ筋鉄筋

摩擦プレート
超高強度繊維補強コンクリート製

支圧プレート
超高強度繊維補強コンクリート製

地盤の変形に追随

